



# ごとう つくば市議会議員 五頭 やすまさ

つくば市議会議員 五頭やすまさ は、9月議会 最後の一般質問をしました。また、来るべき10月18日告示～10月25日投票日 のつくば市議会議員選挙の立候補を表明しました。3度目の挑戦になります。コロナ禍により選挙は、自粛型の選挙になります。

## コロナに負けるな！ ゼロリスクとの戦いに挑む！

今年の地元の新年会で、私は、次のような挨拶をさせていただきました。『今年は庚子（かのえね）。庚は、古いものを継承していくという意味があるそうで、子（ねずみ）は、十二支の一番バッターでありまして、新しいものの種を撒いていくという意味がある』などと、話をさせていただき、明るい期待の年だと。なおかつ、『東京オリンピックの期待の年。8年前のブエノスアイレスの決戦の地で、IOCのロゲ会長の「東京」という言葉で、胸を躍らせたことを思い出します。その感動をこの日本で、東京で世界の人々と共感し合おう』と、そんな夢のような挨拶をしました。まさか10カ月たって急転直下。コロナ大過が日本や世界を襲い、東京オリンピックが延期され、いまだに、その試練を乗り越えられない混迷の今の現状を誰が予想したことでしょう。今こそ私共、地方議員も国会議員も、政治に携わるものが、しっかりとした行動をすべきで、その責任を痛感しているところです。安倍総理大臣も辞任を表明。菅義偉が総理に就任。新内閣が発足します。この時局につくば市は選挙があります。私にとっても3期目のチャレンジは困難な道だと感じますが、市長も、我々市議会議員も、そして国会の先生方も一致団結して、この国難を乗り越える決意を市民に見せる時です。そもそもウイルスはどんなに排除しようとしてもできない。都市封鎖のようなことをやっても、一時的にはウイルスの感染は止めたとしても、封鎖を緩めればウイルスは復活してくることになる。一方で現在までにコロナウイルスの正体が少しずつ判明してきました。今まで疫学的にわかってきたことをまとめると、今のコロナ対策はゼロリスク優先です。経済が回らなくて生活が立ちいかなくなる人たちが多く出てくる今の政策を取り続ける必要があるのか？私は甚だ疑問に感じております。ただの風邪とは言わないけれど、コロナに振り回されて、コロナ以外の医療にも悪影響を及ぼしていることを非常に危惧しております。PCR検査を増やしたところで感染している（暴露していることはわかります）が、重症化と死亡者数を冷静に見れば、数は確実に減少している。京都大学の上久保靖彦教授は、日本人は『集団免疫90%を取得している』と訴えています。コロナの影響は確実に終息してきています。

### 厚生省は、コロナウイルスの指定感染症の扱いを解除すべきだ！

討議資料

今の指定感染症として、対応している国のやり方が、大きな変換期を迎えていると思います。クラスター対策から自然免疫に基づく政策に変換が必要なのでしょう。そして日本は集団免疫をすでに90%以上達成しているとすれば、もうそろそろ元の生活に戻すべきだと考えます。少なくとも、社会に蔓延しているなんでもゼロリスクの雰囲気、または目に見えない感染者に対する誹謗の空気。これに戦いを挑む議論が私は必要なのだろう。リスク0から100の間の経済活動を模索すべきで、経済を回しながら感染症対策を考えていく。この議論が必要です。8月25日のコロナウイルスの死者数は、1,196名。1億2千万のが日本の人口。死亡者数は外国人も含まれる。実質の日本人の死者数は1,000人を切ります。平成30年のインフルエンザの死亡者数は3,232人。多い年で1万人に達する。現在、コロナウイルスは「指定感染症の第2種」の扱い。これは、薬やワクチンがある「インフルエンザ（指定感染症の第5種）」よりも、高い扱いになっている。いつまで国は続けるつもりなのか？死者数や重症化が多いインフルエンザよりも、コロナウイルスの方が指定感染症第2種になっているが故に、すべてがコロナだとゼロリスク対策になっている、これはおかしい。このままでは、日本の経済は死んでしまいます。早期に国はコロナウイルスの指定感染症の扱いを解除すべきだと考えます。国の矛盾した行政をやっている状態を、はやく解消する必要がある。今回は、アフターコロナに対する私の考え方を9月議会で表明し、2ページ～3ページに「コロナと自然免疫に関する私の考え方」を寄稿しました。是非、ご一読ください。